



野口英世博士の肖像

横浜市 長浜ホール「野口英世博士への手紙コンテスト」原稿用紙  
 学校名  
 山見台小学校

6年  
 2組

山本悠心月

山本悠心月

界に誇り、私の憧れる野口英世の生き様です。  
 しぬうれまうと自分のやれることを探す、世  
 ばりまし。それは逆境に立ちどれば、  
 しかし、それに負けじとあなは学問をが  
 それが原因でけじめうれた時もありました。  
 あなは一歳のころ左手に大やけどをおい、  
 とがありません。それは、あなはの生き様です。  
 はこのこと以上に調べて胸を打たれたこ  
 それは、今を生きる全国民に関係します。私  
 私自身も産まれていながら、たかもしれませ  
 トが日本に流出していら、私の大切な人も  
 せませんでした。もし患者に気付かず、ヤス  
 分の一もうしなわれた伝染病を国内に流出さ  
 十四世紀のヨーロッパで大流行し全人口の三  
 れていなか、たべスト患者を発見しました。  
 は、横浜の開港検疫所が当時日本では発見さ  
 で、何だかほころしいです。野口さんあな  
 なたの研究施設です。それが近くにあるだけ  
 査室があります。日本で唯一現存しているあ  
 私に住んでいるところの近くに、田細菌検